

---

令和4年 第2回 対馬市議会定例会会議録(第4日)

令和4年6月17日(金曜日)

---

議事日程(第4号)

令和4年6月17日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

---

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

---

出席議員(18名)

1番 糸瀬 雅之君	3番 神宮 保夫君
4番 島居 真吾君	5番 坂本 充弘君
6番 伊原 徹君	7番 入江 有紀君
8番 船越 洋一君	9番 脇本 啓喜君
10番 春田 新一君	11番 小島 徳重君
12番 小田 昭人君	13番 波田 政和君
14番 小宮 教義君	15番 上野洋次郎君
16番 大浦 孝司君	17番 作元 義文君
18番 黒田 昭雄君	19番 初村 久藏君

---

欠席議員(1名)

2番 陶山荘太郎君

---

欠 員 (なし)

---

事務局出席職員職氏名

局長	勝見 一成君	次長	平間 博文君
課長補佐	糸瀬 博隆君	係長	犬束 興樹君

---

説明のため出席した者の職氏名

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
教育長	中島 清志君
総務部長	木寺 裕也君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	一宮 努君
しまづくり推進部長	伊賀 敏治君
観光交流商工部長	村井 英哉君
市民生活部長	舍利倉政司君
福祉保険部長	國分 幸和君
健康づくり推進部長	桐谷 和孝君
農林水産部長	黒岩 慶有君
建設部長	内山 歩君
水道局長	立花 大功君
教育部長	八島 誠治君
中対馬振興部長	松井 恵夫君
上対馬振興部長	阿比留 裕君
美津島行政サービスセンター所長	藤田 浩徳君
峰行政サービスセンター所長	居村 雅昭君
上県行政サービスセンター所長	原田 勝彦君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	二宮 照幸君
監査委員事務局長	志賀 慶二君
農業委員会事務局長	主藤 公康君

---

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。

報告します。陶山荘太郎君から、欠席の届出があっております。

ただいまから議事日程第4号により、本日の会議を開きます。

日程に入ります前に、6月15日の入江有紀君及び小宮教義君、6月16日の大浦孝司君の一般質問の発言において、不穏当と認められる部分は議長において適切な処置をすることといたします。今後の発言につきましては、議会の品位・秩序維持等の観点から、注意していただきますようお願いをいたします。

---

## 日程第1. 市政一般質問

○議長（初村 久藏君） 日程第1、市政一般質問を行います。

本日の登壇者は3人を予定しております。それでは、届出順に発言を許します。9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） おはようございます。9番議員、会派自公・協働の脇本啓喜です。今回は、対馬市観光振興推進計画の内容の総点検と銘打って質問いたします。

当該計画は、このQRコードから検索できますので、詳細をお知りになりたい方は御利用くださいませ。

大きな1番、対馬市観光振興推進計画に掲げるビジョンの確認について。

（1）本編11ページには、上位関連計画である「対馬市観光再生ビジョン～韓国インバウンド一辺倒からの脱却～」(2020年1月)の概要が掲載されています。また、概要版では、「韓国人観光客」という単語が全く出ていません。

国内誘客に力を入れるというのは理解できますが、韓国人観光客が来た時の対応が記載されていないようです。国が外国人観光客入国緩和を進めている中、韓国人観光客への対応をどう考えていますか。また、韓国人観光客誘客に対する市民の意見の趨勢をどう捉えているか、答弁を求めます。

（2）33ページに、対馬観光のコンセプトとして「日本の始まりに出会う、源（みなもと）の島。」と掲げられています。なぜ、このようなコンセプトにしたのか、答弁を求めます。

また、「日本のルーツ」という表現を35ページと40ページに使用されていますが、対馬が日本のルーツと発信する根拠は何なのか、これが示す意味は何か、答弁を求めます。

大きな2番、当該計画が対馬市全体の取組に特化していることについて。

（1）対馬市の面積は広大で、島の津々浦々で歴史や風土あるいは文化も異なり、地域別に戦略を変える必要があると思います。地域別戦略についてどのように考えているか、答弁を求めます。

（2）現在、最上位計画とされている第2次対馬市総合計画後期計画では、観光に関連する計画として、「北の玄関口」地区まちづくり協働プラン、中対馬未来づくりアクションプラン、厳原南部地域アクションプランが掲載されています。また、地域マネージャーが各担当地域をサポートしてつくり上げられた地域づくり計画も存在します。これらの計画との整合性が取れているのかについて、答弁を求めます。

大きな3番、PDCAサイクル（計画→実行→評価・分析→改善）の実効ある展開について。

（1）計画では、46ページに「事業進捗状況報告会の開催を検討する」と記載されているが、

実施しないこともあるとの意味なのか、答弁を求めます。

(2) 市長が当該計画の「はじめに」でも述べていますし、45ページでも「対馬市観光振興の推進体制については、対馬市の観光を支える事業者・市民を中心に据え（中略）一体的な支援を行う体制づくりを進めます。」と記載されています。「市民を中心に据える」とは、具体的にはどのようなことを実施するのか、答弁を求めます。

以上、答弁によっては、自席から再質問をさせていただきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。脇本議員の質問にお答えいたします。

対馬市観光振興推進計画は、令和3年6月にプロポーザルによる公募を行い、令和3年8月から計画策定に着手しております。

計画の策定では、島内観光関連事業者、旅行社、観光モニターへのヒアリングを実施し、最終的に事業者への計画素案による説明会及び市民に対し、パブリックコメントを行いました。

本計画における韓国人観光客の対応については、まず、令和元年の日韓関係の悪化により韓国人観光客が激減し、国政に左右されない強い観光の在り方が浮き彫りとなりました。

従来はモノの消費による観光が中心でありましたけども、対馬の歴史や文化、豊かな自然、体験などを楽しむコトの消費サービスへと展開し、国内外を問わず、様々な層の観光客に対馬を選んでもらう必要があります。

韓国人観光客への対応についても、アウトドアや歴史、体験など関心が強い客層へコトの消費に向けたPRを行い、誘客を促進する一方、従来からの釜山事務所を活用したPR及び誘客も展開してまいります。

日韓関係の悪化、新型コロナウイルスの影響により、令和2年4月以降、韓国人観光客が途絶え、市内の観光産業事業者は大打撃を受けていることと承知しております。市内経済回復に向けてはインバウンドの獲得は必要であり、国においても、商用・就労等の目的の短期滞在、観光目的の短期滞在等、入国制限が令和4年6月10日から1日2万人に引き上げられたところでございます。

市では、韓国総領事館との意見交換では、今後は韓国側の航路事業者も再開に向けた動きがあると伺っております。ただ、今すぐ対馬に韓国人観光客が訪れることは、現段階での水際対策緩和状況では厳しい状況ではありますが、市でも市内経済回復に向けた起爆剤として動向を注視し、対策に取り組んでまいります。

対馬観光振興推進計画のコンセプトとして、「日本の始まりに会う、源（みなもと）の島。」として位置づけを行った経緯でございますけども、令和4年2月4日に島内の観光事業者を対象に観光振興推進計画素案の報告会をウェブで開催いたしました。コンセプトについては、

事業者からの指摘があり、3つの案に絞られ、最終的には事業者のアンケートにより決定されました。

また、その意味は、振興推進計画にも記載しておりますとおり、対馬は、「魏志倭人伝以降、古来から時空を超えて受け継がれてきた日本の精神がありのまま宿る自然景観や独自の生態系、歴史や食資源」であること、「砦の地としての凜とした佇まいや誇り、対馬特有のオリジナリティ」が「日本の源流、根源、原動力」として捉えられております。「日本のルーツ」と発信する根拠ではありますが、観光関連事業者のヒアリングでも、対馬は日本のルーツがたくさん詰まっている島と意見をいただいております。

対馬は日本独自の信仰などが息づき、その一方で、仏教や漢字などの大陸文化の中継地でもあったなど、対馬は日本の始まりの原点でもあることから、このような表現としております。

この計画が対馬市全体の取組に特化していることについて、地域別に観光戦略を変える必要もあるとの御指摘でございますけども、この計画は対馬全体を大きな枠として捉え設定をしております。

地域別の観光戦略については、「北の玄関口」地区まちづくり協働プランや中対馬未来づくりアクションプラン、厳原南部地域アクションプランにおいて、市民皆様の意見により戦略を練り上げればと考えております。例えば、対馬に旅行費用と時間をかけてまで行きたくなるような歴史、自然、食などの観光の強みが各地域にあります。この観光資源を地域別に磨き上げ、面と面をつなぎ合わせたコンテンツを売り込み、とがった観光へと展開していければと考えております。

本計画では第2次対馬市総合計画の後期計画を上位計画と定め、総合計画のなりわいづくりの持続可能な観光業の推進を基本とし、本計画でもコアなファンづくりによる持続可能な観光へと展開を進めてまいります。

上位計画である第2次対馬市総合計画では、「北の玄関口」地区まちづくり協働プラン、中対馬未来づくりアクションプラン、厳原南部地域アクションプランが関連計画として位置づけられており、先ほど説明いたしました地域別の観光戦略にもこのプランと関連がございます。本計画でも、上位計画に沿って、関連する各種プランとも連携を行い、事業の展開を図ってまいります。

事業進捗状況報告会の開催を検討するとの記載があるが、実施しないこともあるのかとの意味につきましては、本計画が計画に沿って事業が実施されているのか、また効果が得られているのか、年2回程度の開催を検討としており、最低1回は開催を行うこととしております。しかし、PDCAサイクルによる検証を行う上では、年2回程度を目安に開催を行うこととしております。

しっかりと市民への説明と理解が進められていると理解してよいのかにつきましては、策定に当たりましては、島内観光関連事業43事業者から、外部事業者及び専門家8者、島外の観光モ

ニター11名に対しヒアリングを実施しております。また、令和4年2月4日には、事業者の皆様への素案計画の説明会、令和4年2月14日から令和4年3月6日にはパブリックコメントを実施し、市民への説明については一定の理解があったものと考えております。

市民を中心に据えるとは具体的にどのようなことを実施するのかにつきましては、例えば観光体験コンテンツの造成、新たな観光商品開発及び販売、観光ツアーの造成などを意欲的に行う事業者に対し、専門家のアドバイスや財政支援を行い、市民が中心となった観光振興策に対して、行政が支える仕組みを展開してまいります。

また、地域の事業者が勉強会を行ったり、経営のフォローアップ、事業継承など、内容に応じたサポートも考えており、市民が主体の観光振興事業の展開を見据えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） まず、ビジョンの確認についてなんですが、まれに「もう韓国人は来んでいいばい」とおっしゃる市民がいらっしゃるのも承知しておりますが、少なくとも、私が今回の一般質問に当たり、全島及び本土の有識者を合わせて約50名のヒアリングの中、約30名の御返事をいただいておりますが、その方々の中には韓国人観光客の早期受入れに賛成の意見ばかりでした。特に、上対馬地域の方からは、出入国のほとんどは比田勝港なのに、無料PCR検査場も、新型コロナ陽性判明者隔離施設も、なぜ厳原のみなのかとの疑問の声も上がっています。

また、対馬観光のあり方検討会でも、以下のような御意見があったと記載されています。国内客誘客は長い間やってもできなかった。すぐ近くに釜山350万人の都市がある。一刻も早く韓国人観光客を取り戻す必要があると、これは、記載されてるのは御存じだと思います。

ところで、韓国人誘客に関する意見の趨勢をどう捉えていらっしゃるかという質問をしたつもりなんですが、市民はどういうふうにこの韓国人観光客の早期、特に再開について、どのように考えてらっしゃると思ってるか、もう一度答弁お願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今のちょっと、市民はですか、市長はですか。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 市民です。市民がどう捉えてるか、市長はどう思ってるか。

○市長（比田勝 尚喜君） 市民ですね。

議員も御存じのように、市民の皆様は、このお隣の韓国からの観光客を待ち望んでいるというふうに私自身も感じております。

しかしながら、これまでも数度ございましたように、国と国との対立の関係から、政治に左右されて観光客が突然と対馬を訪れることが激減したというような経験もしているところでござい

ます。

このようなことから、やはり、もしそういったことになった場合——韓国のほうも大統領も替わりましたので、今後、そういうことはおそらく起こることはないものというふうには考えてはおりますけれども、ただただ国と国との関係でございますので、そこがもしそのようなことになった場合、また再度、対馬の観光産業、そして商業者の皆様、途方に暮れるということになるかと思えます。そういう関係から、やはり韓国人観光客の誘致はこれまでも力を入れていながら、国内からの誘客のほうにも力を入れていくというようなコンセプトで、市といたしましても県や国、そしてまた他の観光事業者の皆様と力を合わせながら、対馬の観光産業の発展に向けて努力をしているところでございます。

そういうことで、市民の趨勢といいますけども、市民はおそらく韓国人観光客はもとより、国内の観光客の誘客を待ち望んでいるということでございます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 安心しました。確かに市長のおっしゃるとおり、国の情勢や、今、コロナというような、国同士の戦いではなくて、そういうパンデミックみたいなことが起こったら、インバウンドばかりに頼ってはいけないということもよく理解できます。国内誘客、今まで進んでなかったことも力を入れる、その中で韓国人誘客にもちゃんと力を入れるんだという答弁がありましたので、市民の、特に北部のほうはそこに頼り切っていたところがある、まさにそうだと思うんです。ただ、頼らざるを得なかった状況があったわけです。これからは国内誘客も両方取り組んでいくということで、しかも、きちっと韓国のほうも目を向けるということで、ありがたい答弁であったと思います。

ところで、日本から韓国、韓国から日本へ入国する際、今現在、各国——日本と韓国だけでも結構です——どのような手続が必要なのか、お知りであったら教えてください。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 詳細まではちょっと御説明できないところもございますけれども、お答えいたします。

水際対策強化に係る新たな措置ということで、今、29号でしょうか、出ておりますけれども、御存じのように、6月の10日より少しずつ水際の対策のほうも緩和をされておるということで、現時点では1日に2万人ということで受入れが可能となっております。

ただし、旅行者に関しては、受入責任者となる旅行会社、そういったところが受付の窓口となって、国内に入られたら、添乗員がつかれてパッケージツアーを行っていくと。国内に入られてからも、行動の一つ一つが添乗員から、そういう目線の中で同行しながら行動すると、個人の行動はできないというようなところまで、少しずつ緩和策がされておると。

あくまでもこれは空からの便ということで、海のほうについては、この先、国の緩和策等が進んでいくと同時に動きが出てくるのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、答弁があったように、今現在は空路のみの開放であって、船を使ったインバウンドはまだ始まっていない、開放されていないということ、それは重々存じ上げてます。

ただ、船を使った出入国の一番多かったのが対馬、比田勝です。まず、空路だけではなく、船を使ったインバウンドの再開についても強く国に要望されて、今現在、コロナの証明とかも、国内で通用するもの以上の48時間以内にしたもの、証明されたもの等、必要な状況になってます。そういうものの緩和についても、やはり、対馬の市民が望んでるのを分かってるんだというふうな答弁をいただいたのですから、しっかり国のほうに、航空路だけではなく、船のほうの開放も急いでくださいという要望をしっかりしていただくようお願いいたします。このことについてお願いしたいと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど、部長のほうからも説明いたしましたように、今現在は空路でございますけども、対馬観光につきましては、韓国総領事館のイ・ヒソプ総領事とお話をさせていただいたときにも、韓国の事業者のほうも対馬との航路の準備を進めているというようなことも聞いております。

そういう関係で、今、JR九州高速船のクイーンビートルのほうも準備をされているようですので、市といたしましても、関係者、そういったところと一緒に、国際航路の再開に向けても要望をしていきたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、韓国のほうの業者も望んでるという情報も入ってきてるということです。今、動き始めている韓国のほうの事業者、対馬に本当たくさんの観光客を送り込んでくれて感謝しております。この方々が、今、準備に取り組んでます。対馬市は、韓国人は来んでいいとばいと思ってないんだ、早く帰ってきてほしいと思ってますよというシグナルを、釜山事務所などを通じて、そういう会社のほうにも発信していただきたいと思います。安心してそれに取り組めるように支援してください。

それから次に、この計画策定の際にヒアリング等を行ったと。結構たくさんの方、行ってらっしゃると思います。この基となったデータ、いつ取られたのでしょうか。その中で、どの期間を対象として、この計画策定につなげるデータとされたのでしょうか。そのあたりをお聞かせくだ

さい。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） お答えいたします。

観光振興推進計画そのものが、実は令和3年度から進めるはずであったんですけども、いろんな国際情勢によって、先ほど市長申しますように目標値がなかなか達成できなかったり、コロナの関係があったりということで、3年度をそういったことで、国内の、そして島内のそういう社会情勢がどうなのかということで、1年間をそこで検証する期間ということで設けて、43者、それから11者、8者というふうに聞き取りをさせていただいたこのデータは、令和3年度に行ったものであります。

それと……。よろしいでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、聞かせていただいたの、コロナ後のデータを基にした計画だということによろしいですね。

そうであれば、国のGoToトラベルや県のふるさとで“心呼吸”の旅、それから対馬市が行った新旧対馬藩札による誘客指針に大きく左右された結果であろうことは容易に想像できますよね。従来、本来の観光客が来てたときのデータじゃないデータを基にしてるということですよ、私が言いたいのは、大方のキャンペーン期間中、対象者を同一県内あるいは同一市町村在住者に限定されていました。それを基礎データとしてこの計画を策定したのであれば、状況が大きく変わろうとしているのですから、計画の骨組みから早急に見直す必要があるのではないのでしょうか。答弁を求めます。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） お答えいたします。

ヒアリングを行いました、御協力をいただきました各業者の方ですけども、基本的に、今回の5か年の計画をつくるに当たりまして、まず、対馬の地元の方々の感覚、それと実際の市場のニーズはどうかと、そういったことが原点にございまして、そこになるべく隔たりがないようにと、そういう観光実態を把握するために、こういう抽出した形でのお声をいただいております。各業者には、専門の本市の観光アドバイザーが帯同いただきまして、事細かにそういう状況等を聞きながら進めていくということで、この計画の根本をつくっておるつもりでございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今の答弁からすると、基礎データは令和3年度の実績を基にしているが、その先まで見据えた計画になっているということによろしいですか。はい。では、理解

できます。

ただ、ここにも書いてあるように、しっかりPDCAサイクルに乗せるんだ、進捗状況報告会も開催するんだと。今、検討するじゃなくて、年1回はするという発言があったと思うんです。しっかり、市民も巻き込んで、今のこの計画でいいのかどうか見直せる、そういう環境づくりにも取り組んでください。約束、よろしいですか。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 協本議員、我々が一番思っるところに視点を持っていたいておりまして、非常にありがたいところでもあるんですけども、本計画は毎年5年先の目標値を掲げるのではなくて、毎年、この事業進捗報告会、これを開催することによって、その年々の上地区、中地区、下地区それぞれの反省点でありますとか、これからどういうアイデアをもって、工夫をもってやっていくのかとか、そういう報告会でございますので、この計画というものは、毎年毎年、プラスアルファ生きた計画というふうなことで進めております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、協本啓喜君。

○議員（9番 協本 啓喜君） 力強い答弁いただきました。実践いただけるように、よろしくお願いたします。

それから、次の「日本の始まりに出会う、源（みなもと）の島。」、それから「日本のルーツ」というこのコンセプトについてなんですが、今、先ほど市長のほうから答弁がございましたように、日本の精神がありのまま残ると、それから日本のルーツがたくさん詰まっているという評価をいただいたと。確かにそういう側面もあるかもしれません。

ただ、対馬は日本の始まりじゃないと思うんです。日本のルーツではなくて、中国とか大陸の文化が一番最初に入ってきたのが日本であって、もともとの日本ではないはずなんです。純日本ではないでしょう。そこは、ちょっと私と見解が違うところかなというふうに思っています。

純日本を味わいたいのであれば、京都や奈良等を訪れられるんじゃないでしょうか。対馬市は、合併当初から、「アジアに発信する歴史海道都市」というのをコンセプトとしてきましたよね。この日本の源や日本のルーツというコンセプトが、整合性があるとはちょっと私は考えられません。従来の、先ほど市長がおっしゃられたような形で日本の源、ルーツというのであれば、少し違うんじゃないかなというふうに感じております。

私の感想と意見が違うのであれば、お聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） それぞれ、人間で見解の相違というものはあろうかと思えます。

今、議員おっしゃられるように、文化は、確かに中国のほうが、中国4000年の歴史ですか

ね。そういった形で古くて、中国のほうから朝鮮半島を経て、対馬を中継しながら日本に渡ってきたということでございまして、対馬はそういう意味でも大陸文化の中継点でもあったというようなことで、最初に日本に入ってきたのはここ対馬だというようなことで、対馬は日本の始まりの原点でもありますよというような捉え方をこの計画の中ではしていることとさせていただきます。

言われるように、これは個人個人でいろいろ捉え方があろうかと思っております。今回のこの計画をいろいろと検討してつくっていただきました特に観光事業者の皆様にとりましては、日本の始まりの原点と、そしてまた源の島ということは、かなりこだわったものになってあるというようなことは担当のほうからも聞いております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 事業者もそういうふうには言ってるんだということとありますので、くどくは言いたくないところですが、市民基本条例の前文でも述べられています。対馬は、いにしへの時代から朝鮮半島と日本をつなぐ海の道、海道の中継地として大きな役割を果たしてきました。その影響を受けて、独特の歴史や文化、風習が今も残されています。

ここから先は私の意見です。

また、生物も、朝鮮半島や大陸系、日本固有系、そして対馬固有系が生息する多様性を誇ってるんです。日本だということと対馬を売り出していくものではなくて、今言ったような、多様性を含んでるということと売り出していかなきゃいけないと思ってるんです。このように、大陸、半島と日本本土、そして対馬独特の要素を包含していることが対馬の特徴、すなわち対馬らしさだと私は認識しています。

もう、このことについては水かけ論になるかもしれませんが、何かあれば答弁いただきますが、結構です。何かあれば、また答弁ください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このことでいろいろと議論をしても、先ほど言われるように、水かけ論になろうかと思えます。あくまで、この観光振興推進計画の中では、大陸文化の中継地として、ここ対馬が日本の原点、そして源の島という捉え方をもってこの計画を組み立てているということと御理解をお願いしたいというふうに思えます。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 次に、第2次対馬市総合計画から、時間の関係上、「北の玄関口」地区まちづくり協働プランに絞って質問いたします。

このプランはいつ策定されたか、御存じですか。

○議長（初村 久藏君） 上対馬振興部長、阿比留裕君。

○上対馬振興部長（阿比留 裕君） 脇本議員の質問に答えさせていただきます。

このプランは、平成19年3月に策定されたものとなっております。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） そうですね。2007年ですよ。今年から15年も前です。韓国から、まだノービザで、やっと来れるようになって、韓国人観光客、まだ年間数万人に達した、その程度の時期です。この計画を、このプランと関連計画として今も使っているということに対して、どのように思われますか。

○議長（初村 久藏君） 上対馬振興部長、阿比留裕君。

○上対馬振興部長（阿比留 裕君） お答えいたします。

経緯でございますけども、先ほど言ったように、平成19年3月に協働プランを策定され、平成26年の2月に観光リゾートイメージ図、報告書の策定に至っております。

これまで、この第1、第2プランに基づき、それぞれの計画案から、事業等、実施をしている経緯であります。平成29年の3月から、この活動自体が休止状態と現在となっております。

ただ、当初の協働プランにつきましては現在も生きており、その活用については、事業実施のほうに向けて着々と進んでいる状況であります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、答弁にありました、ここにも書いてあります。やはり、その計画、アップ・ツー・デートしていかなくちゃいけませんよね。その時々合った計画をつくるのが当然のことだと思います。

対馬市における地域包括ケアを検討する際にも、私、提案しました。対馬全体、共通のことについてばかり検討しても、地域によって医療・介護資源が大きく異なる対馬では各地のニーズに答えられません。まずは、各地のニーズに応えるために、地区別の協議をメインとして、そこから見えてくる共通項について、初めて対馬全体で協議すべきではないかというふうに私は訴えてきました。担当部署もコロナ禍で開催がままならなかったとはいえ、昨年度から集落ごとの実態把握に乗り出していただいています。すごく評価しています。同じように、観光分野においても、地域ごとの戦略をメインとする計画策定に変更すべきだと思います。

今議会初日に報告したとおり、上対馬病院の建て替えが公となりました。この新築移転先選定が近々対馬市に委託されます。また、立地適正化計画に準ずる地域として、比田勝周辺も指定されています。北部地域の総合的まちづくり協働プランを見直すよい契機だと思います。上対馬振興部に権限と財源を付与して、北部地域における市民協働の総合的まちづくり担当とすることはいかがでしょうか。市長、答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 北部地域の振興プランについては、もちろん上対馬振興部が中心となって、進めるべきだというふうには思っておりますけれども。ただ、上対馬振興部のみで走られても対馬全体と私がいつも言うように横串を刺しながら、あくまでも連携をしながらの振興策を作り上げていかなければならないということ。中心には据えたいというふうには思っております。そういうことでよろしいでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） まだそのようなことをやる、検討するということがよろしいですか。まちづくりについて、全てを任せるわけではないが、中心となってやってもらう方向でいきたいという答弁でよろしいですか。よろしいですね。頷いていらっしゃいますので。じゃあそこはここで終わりたいと思います。

それから、大きな3番目のPDCAサイクルについてなんですが、先ほど進捗状況報告会を年に一度は最低行うという答弁をいただきましたので、この辺りは少し割愛します。

このPDCAサイクルの中で、今までやらなきゃいけなかったことが少し足りなかったんじゃないかなと思っているところを今から述べます。

韓国人観光客が年間41万人を超えていたころは受け入れ態勢が追い付いていない観光公害、いわゆるオーバーツーリズムの状況であったことは衆目の一致するところであると思います。その後、日韓関係の悪化とそれに追い打ちをかけたコロナ禍の影響で市内観光業は大打撃を受けています。しかし、視点を変えたら観光公害対策を検討する年月を3年弱もの間与えられたともいえます。この間、対馬市は何か観光公害対策を準備なさってきたのでしょうか。答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 観光交流商工部長、村井英哉君。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 今おっしゃいますのは……

○議員（9番 脇本 啓喜君） オーバーツーリズムに対する対策。

○観光交流商工部長（村井 英哉君） 承知しました。そういったことで令和元年までは韓国から41万人ということで、36万人、41万人お出でいただきまして、そういった中には経済効果も多くありながら、そして島内でもある意味、環境に対して食べたもののかすが捨てられたりとかいろいろなこともあったり、そういうことはあったかと思っておりますけれども、そういうオーバーツーリズムという表現が適切かどうか分かりませんが、薄利多売であったりとかそういったことも含めて。

それを検討するために、今回しま旅などを使って、国内のお客様が少なかったわけですから、そこを例えば平成30年度でありますと1,900人ぐらいしか国内のお客様、このしま旅を使

っておられませんでした。それを、そういうことではいけないということで、県などの力を借りまして、元年度にいきますと1万人、そして令和2年度でいきますと1万8,000人と、五島や壱岐を上回るように我々としては国内のお客様を迎え入れることができましたので。そういったことも含めて、これまでの来ていただくことはありがたいんですけど、その1つの宿のキャパシティ等も含めて調整をしていくと。バランスよくやっていくということで、私たちは今そういう方向で進めておるといふつもりであります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 9番、脇本啓喜君。

○議員（9番 脇本 啓喜君） 今、国内の観光客の誘致が進んでいるんだという数字を上げての答弁だったと思います。私は、確かに数字はその数字だと思うんですが、対馬藩札、あれは対馬の市民も対象としていましたが、ほかの地域はそれぞれの住んでいる地域の人たちはその恩恵を受けていませんよね。そうですね。だから、そういうところで、その数字を同列に扱うのはどうかというふうに思います。

それから、観光も大事なんですけど、先ほどから市民を中心に据えると言いながら計画のほうの図にも書いてあるんですが、市民とは観光事業者だというふうに捉えていらっしゃるようです。そうではなくて、この前観光DMOの話も出ました。観光DMOには観光関係の人だけではないんです。市民も入って、対馬の観光、その地域の観光をどうしようかということを考えていくのが観光DMOです。その点からいくと、観光も大事なんですけど、それ以上に現在対馬に住んでいる市民の安心安全な生活の確保のほうがもっと重要です。そのためには、野放図な観光産業の拡大による観光公害の発生を未然に防止するための実効ある規制をあらかじめ規定し、それを遵守してもらう仕組みが必要です。今回、杜撰な安全管理で起こるべくして起こったような北海道の遊覧船のような、ああいう事故が起こってはいけません。6月6日に川口さんが長崎新聞時評で書いてありました。御覧になっているようです。しっかりそこも理解して、安全もしっかり配慮しているところなんだと、対馬ということをPRしていただくようお願いして終わります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、脇本啓喜君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時10分からとします。

午前10時53分休憩

午前11時10分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。引き続き市政一般質問を行います。

8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 新政会の船越洋一でございます。さきに通告をしておりました2点について、市長並びに教育長に質問をいたします。

まず1点目ですが、久田小学校の校舎外壁塗装工事ほかについてであります。現在の校舎は、昭和54年に建築され、築42年になりますが、その間、生徒数の増により、増改築がされ、現在に至っております。しかし、老朽化により、校舎の外壁は剥がれ、漏水による地盤沈下もあり、ポンプ室は傾き、付近の地下は空洞化が見られ、また歩道も地盤沈下している状況であります。健全な教育行政を進めるためには、環境をよくする必要があると思っておりますが、これらの改修工事を早急に整備ができないか、教育長並びに市長に伺います。

次に、2点目であります。廃校の利活用についてであります。対馬市においては、人口減少に伴い、学校の統廃合が進められておりますが、多くの廃校を利用し、多方面での利活用を検討すべきだと思いますが、市の教育施設跡利用に関する基本方針には、産業の振興、社会福祉の向上、地域の雇用の創出、地域社会への貢献、その他地域の活性化に著しく寄与すると認められるものについて、貸付けを決定し、教育施設跡の積極的な有効活用を促進するとあります。

また、地方創生とは、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指すとあります。このような観点から、市内に点在する多くの廃校の利活用を島内外に広く公募をかけ、民間による事業を展開してはどうか、市長の考えを伺います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 船越議員の質問にお答えいたします。先に2点目の廃校の利活用のほうは、私のほうから答弁させていただきます。

教育施設跡の市有財産を貸付けする場合は、対馬市教育施設跡利用に関する基本方針に基づいて、まず公共施設としての利用を最優先し、次に地区による利用を優先、利用見込みがない場合は、雇用の創出や地域の活性化等につなげるため、民間事業者等にも使用していただき、その利活用を図ることとなっております。また、この方針に基づき廃校舎等の利活用を図ろうとする場合は、事業等を行うため、廃校舎等を利用しようとするものを公募することとなっております。

本市の少子高齢化が進む中、学校の統廃合も進められ、現在、廃校舎は24校あり、そのうち利活用されていない廃校舎は16校であります。民間事業者が廃校舎を利用するためには、民間公募に関して、必要な事項を決定し、公募を行います。応募があった利用者の事業内容について、対馬市学校跡地利活用検討委員会において、地元地区の意見を勘案し、審査を行い、利用者を決定することとなっておりますが、廃校舎の利活用が進まない理由といたしましては、施設の規模

が大きいことや利用料が高額になることが考えられます。

このことから、本定例会に議案として上程し、議決いただきましたが、事業者の廃校利活用を進めるため、産業の振興、社会福祉の向上、雇用創出などを目的とする、地域の活性化を図る利用であれば、利用開始後3年間の貸付料を減免し、その後も事業が安定するまで、施設利用料を減額することも可能となります。また、契約までの手続期間を大幅に短縮することができ、事務を簡素化することで、廃校利活用を推進してまいりたいと考えております。

私のほうからは以上であります。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 私のほうからは、船越議員御質問の久田小学校校舎における、外壁塗装工事ほかについてお答えをいたします。

現状といたしましては、久田小学校校舎につきましては、昭和54年に新築され、建築後42年を経過しており、経年劣化による老朽化が進んでいる状況にあります。外壁については、特にグラウンド側の校舎外壁塗装の劣化が進んでいる状況でございます。また、ポンプ室におきましても、御質問のように地盤沈下による傾きも顕著であり、校舎前駐車場においても、地盤沈下によるひび割れが発生するなど、施設の老朽化が要因と思われる影響も発生している状況でございます。

久田小学校におきましては、御指摘の件を含め、対応すべき案件が複数あり、教育委員会では、これまで優先すべき案件から順次対応をしてまいりました。これまで、校舎及び屋内運動場の雨漏りを補修、グラウンドの改修、教室及び廊下等の床張り替え、トイレの洋式化などの事業を行い、過去5年間でおよそ1億3,000万円の改修工事を行ってきております。

このように、対馬市におきましては、久田小学校含め、市内における学校施設の維持管理について、建築後40年を超える施設が多数あり、毎年多くの改修、修繕等の要望を数多くいただきますが、大きな予算を伴う改修、市単独予算での対応となる改修など、その対応に大変苦慮している状況でございます。

しかしながら、子供たちのために安全安心な教育環境づくりに取り組むことが、教育委員会の重要な業務の一つであります。まずは、各学校における様々な状況を精査し、危険性や緊急性を考慮した上で、優先順位を決め、その中で久田小学校につきましても、できる限り早急な対応を行ってまいります。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） まず、1点目の久田小学校のことについてお伺いをいたします。

これは、私も5年ほど前に、1回質問した経緯がございます。しかしながら、それから一向に

改良はされないということを考えますと、この久田小学校というのは、統廃合を考えているんですか、それを答弁してください。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） お答えいたします。現時点で、久田小学校については考えておりません。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 5年も手つかずでおるということになりますと、統廃合を考えているから、建物、校舎の老朽化の箇所についてでも整備をしないのかなと、そういうふう思うわけです。

その間、5年間の間に、さっき教育長言われたように、運動場の整備、あるいは台風時に起った体育館の屋根の修理、それから校舎内の廊下の補修、それから家庭科室の床の補修、こういうのは逐次やってはいただいておりますが、要は外壁を、恐らく教育長も見に行かれたと思うんですが、外壁は剥がれてしまってます。

子供たちにすると、自分たちの学びやの学校の姿を見るときに、あんな剥がれた、あるいはポンプ室のあんな傾いたような状況、これを何年もほたつたまんましているわけですから、これを教育行政として、早急にこれはやる必要があると思うんです。

その辺いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 御指摘ありがとうございます。今おっしゃったように、6月7日に現地に、教育部長とともに確認に出向きました。事務職員の先生立会いの下に、各校舎、御指摘の場所等確認させていただきました。

今ございましたように、外壁の汚れ、そして劣化等については、これはひどいなど、私も実感いたしました。それとポンプ室の傾きについても、万が一地震等があったときに、倒壊のおそれがあるのではないかなということも考えました。

この点につきましては、先ほど答弁いたしましたように、早急の対応が必要であると考えております。市長部局とも連携をしながら、繰り返しになりますけれども、可能な限り早く対応してまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） この久田小学校の件については、今現在でも、私もこの前、校長先生といろいろお話をさせていただきました。先月の29日、小学校の運動会がありまして、私もそこに参加させていただいたんですが、その折、5年前にやった質問の中で、どのようになっ

とるかなということで、ずっと校長先生と一緒に見て回りました。ところが、現状は変わっておりません。

ほかにもまだあるんです。体育館の雨漏り、それから校舎の雨漏り、低学年の階段、2階部分の雨漏り、もう剥がれています、塗料も。それから水道水の濁り、それから漏水の、先ほど言いましたけど、漏水による地盤沈下、それから運動場のフェンスの破損、学校運動場の砂の飛散、これは教習所のほうに向かっていきますので、教習所のほうに砂が飛んでいるんです。そこら辺もしっかり施設の中で止まるように考える必要があるかと思います。

それから、特別支援学級、これが1学級増えたもんですから、エアコンがない。スポットクーラーというのをかけて、今それをかけているんですが、かけていただきましたけれども、音が高いんです。があーっという音がするんです。これじゃ勉強になりません。そういうこともあります。こういうことも含めた中で、久田小学校の改修工事を含めた中で、こういうのをどうしていくかなということは、真剣に考えていただきたいと思います。

予算がないから、重点的に、その重点箇所から進めていきます。5年たってもまだできてない。

市長、こういうことが現状にあるんですが、予算がないために、子供たちが、そういう状況にあるということを、今、訴えておるわけですが、市長はどのように考えますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほど、教育長のほうからも答弁がございましたように、久田小学校の特に雨漏りとか床材、ここら辺については、確か5年前になりますか、議員のほうから質問をいただいたことを承知しております。

そういう中で、優先順位の高い順位から順次整備をしていこうということで、先ほども教育長が答弁しましたとおり、5年間で約1億3,000万ぐらいですか、この辺の整備を行ってきたということで、まだまだこれだけでは不足するということは認識しておりますので、今後でもできる限りの予算をつけながら、外壁の塗装等をはじめとした整備を行っていきたいと思っております。

できる限りの予算を、何とかかき集めてでもやっていきたいという思いを持っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 予算をかき集めていただけますか。1億3,000万かけるとのことですが、大きな事業は運動場の整備にかかると、確かに運動場も雨が降っても水がたまらんようになりましたから、子供たちは喜んでおります。

しかしながら、学校の中のそういうところが、危険な箇所があるわけですから、これは教育行政の中で、教育委員会にも予算がありますから、それをあまり教育委員会に何とかせ、なんとか

せと言うてでも、振興計画にでも上げてでもやっついていかんとできんと思うんです。

しかし、それでは、子供たちは環境がよくなりません。ですから、市の一般財源でも結構ですから、そういうのを、そういうところに充てていただいて、早期にこれができるように、力を貸してください。

私のためじゃない、子供たちのために予算をつくってくださいという願いをしおるわけですから、どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、この人口減少対策の中で、特に、子供は対馬の宝というようなことで、いろいろと行政を進めてまいっておりますけれども、議員おっしゃられるように、私自身も本当に子供は宝ということで、私自身は教育行政のほうには、かなりの予算は投入してきていると自負しておりますけれども、今後でもできる限りの予算を充当できるように、努力していきたいと思えます。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 教育長、市長の積極的に予算をつけるという答弁でしたので、しっかりこれは、計画書をつくって早急にやれるように準備をしてください。

私も、豆敷小学校と豆敷の中学校にも訪問させていただきました。ここも立派な校舎です。本当に。ほかの小学校からすると大きな差あります。しかしながら、そこで学んでる子供たちは幸せだなと思えます。しかし、それが当たり前だと思うんです。

ところが、それに比べて、久田小学校というのは、そういう修理箇所がたくさんあるということもありますので、早急にこれは、市長、検討できるように考えてください。

豆敷のほうも、やはり生徒数が激減していて、校長先生たちも悩んでおりました。生徒数が少ないから、何とか少しでも子供が増えてくれりゃいいんですけど、いう切実なお言葉でした。これは、すぐそれがなるといふわけにはいきませんので。

しかしながら、今から先を考えると、やっぱり久田は、巖原以南の学校、廃校にはなりました。今の残っているのは豆敷だけでしょう。

ここが、もし統廃合せないかんという状況になってきますと、久田が本校になってくるんです。子供たちは、巖原には行かんでしょう。そうしますと、余計に久田の学校というのは、整備はしっかりしとく必要があると思うんです。

豆敷のほうの学校の統廃合というのは、考えておられますか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 統廃合については、現時点で確定的なことは申し上げられませんけれ

ども、これは豆酩地区も含めて、対馬全体の子供たちの人数の状況を見ながら、検討してまいりたいと考えているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 私も生徒数を、ずっとこの何年間、こうなっているということもお聞きをしました。やっぱり厳しいなと思うんですが、やはりそういうことをやるには、地元の人たちの意見というのを、十分に聞いていただいて、それからできる限り、やっぱり地元の人たちは地元で学校に行かせたい、立派な学校があるわけですから、そういうこともありますし、市のほうにすれば、財政の件もあるでしょう、そこら辺も含めた中で、検討をよくよくしていただきたいなと、このように思います。

それから、これは通告をしておりますが、教育部長、厳原地区の学校給食調理場のエアコンの件を、前々からお願いしておりました。これは今どのような状況ですか。

○議長（初村 久藏君） 教育部長、八島誠治君。

○教育部長（八島 誠治君） 厳原調理場のエアコンの件でございますけれども、今年度といたしまして、令和3年度に設計の予算をつけて、繰越しをしまして、先日の5月31日付が工期でございます、一応、設計ができたところでございます。

今、この設計を基に、今度の振興計画のほうに計上をいたしまして、次年度の実施に向けて、予算の獲得に努めてまいりたいと思っている状況です。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 給食センターというのは、物すごい火を使うから暑いんです。そこで仕事をされている方というのは汗だくです。やっぱりそういう環境をしっかりとした中で、仕事していただくというのは、基本だろうと思うんです。基本計画に上げて、それを振興計画に上げてやっていくということですが、いつになるか分かりません。

振興計画に上げてやるということになると、いつできますということではできません。そういうこと考えると、振興計画に上げてやります、ということをやるときさえすれば、それでいいというものと違うんです。

実情をしっかりと見た中で、いかにこれを早くしてやれるかということを考えるのは、あなたたちの仕事なんです。そこら辺しっかりと踏まえてやっていただきたい。早くできるようにしてください。お願いします。

それから2点目に移りますが、統廃合の件なんです、市長、先ほど現存しとる廃校になったところが24校ですか。今現在あるのが16校。24校廃校があるわけですが、これを有効に活用するというようになってきますと、今まではやはり基本条例がありまして、なかなか使いに

くいという面がありました。この24校のうち、償還金はどれくらい残っていますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 償還金につきましては、私のほうでは把握はしておりません。教育委員会のほうにお願いをしたいと思います。

ただ、今現在、廃校舎、先ほども申しましたように、24校舎あると。そのうちの利活用されていない校舎が16校舎ということで、（発言する者あり）16校舎、木造校舎のほうは、割と利活用してあるということは聞いております。

こういったところは、もう残存価額がないということで、使用料もかなり安くなるというようなこともありまして、木造校舎はかなり利用はされてますけど、鉄筋コンクリート校舎がやっぱりまだ耐用年数が60年ですか、残存価額が残っているということで、高額になると聞いております。

残存価額の件は、償還金の件は教育委員会のほうにお願いします。

○議長（初村 久藏君） 教育部長、八島誠治君。

○教育部長（八島 誠治君） 償還の部分でございますけれども、基本的に補助金残っておるところもございます。最近、統廃合になった学校もございます。

利用の貸し付ける状況によりまして、国のほうの補助金も返還しなくてもよい場合もございますし、貸出先によってまた変更が出てまいります。

ただ、無償貸付けでありますと、基本的には補助金の償還はしなくてもいい状況でございます。有償ということになりますと、その部分で補助金の返還等出てくる場合もありますので、その状況によって変わってくるのかなと思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 教育部長、分からんような話をしても駄目ですよ。もう少し全体的にあるわけですから、これ償還残っとうでしょう。残っとうでしょうが。それは幾ら残っているんですかって、全体の校舎で、鉄筋もあれば木造もある。だけど、その金額は幾らぐらいあるんですか。

それは財産管理のほうに、所管も移つとると思うんです。教育委員会じゃなしに、廃校になったところは、確かそうだと思うんですが、だけど、私が聞きたいのは、廃校になってそのまま潰れかけとる校舎もありますが、要は償還金が限度がありますから、木造では50年、鉄筋コンクリートやったら60年あります、その間、それ前に廃校になつとるわけですから、残りがあるわけです。その残りの償還金が対馬全島でどれくらいありますかということを聞きよる。分かりますか。分からんやったらええですよ。曖昧なこと言うたらおかしいことになる。これ議事録に載りますから。

○議長（初村 久藏君） 教育部長、八島誠治君。

○教育部長（八島 誠治君） すみません、質問の趣旨を勘違いしておりまして、幾ら残っておるかということにつきましては、現在、手元に資料もございませんので、把握はしておりません。  
必要ということで、後ほど提示はできるかなと思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 例えば、この償還金が残っておれば、今現在でも廃校になつるとこの償還金があるわけですから、国に返していっとると思うんです。朽ち果てとってでも、償還金が残つとれば、払うていかないかんわけです。

だから、私が言うのは、結局そういうところをしっかりと早く崩れんうちに、利活用して、そして広域的に多方面の方たちに、それを利用していただくと、市がするんじゃなしに、民間の方に金を出していただいて、改造してもらって、自分たちの用途に応じたような展開をしていけば、市にもそんな負担かからんと思うんですが、それを今度、条例で無償になるということですから、かえってやりやすくなりました。

ですから、そういう意味で無償にされたんだと思うんですけども、それであれば余計にそういうところを、償還金が残つとれば払わないかんでしょうが、民間に貸すんだったら、償還金は払わんでいいとはなりませんよね。

そこら辺はどうなっているのか、聞きたい。そうせんと民間の貸出しはやりにくくなってきますから。どちらが答弁してくれますか。

○議長（初村 久藏君） 教育部長、八島誠治君。

○教育部長（八島 誠治君） 償還というのは、起債関係の償還ということでよろしいですか。基本的に学校建設してかなりたっておりまして、恐らく起債のほうの償還は終わっておるものと思います。国庫補助金については、耐用年数によって、利用状況、有償での売却とかになりますと、返還も出てまいります。基本的には国庫補助金について無償の場合は、補助金の返還は発生しません。そういう形でよろしいでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 物は分かるように言わんと駄目ですよ。償還金が残つとるんであれば、幾ら残つとるんですかと聞きよるわけです。ないんやったら、ないと言ってください。次の質問の仕方があるんですよ、私は。ないんですか。今、資料がありませんから、それは答弁できんでしょう。できんならできんと言ってください。

やはりこの廃校跡地の件で、一つ私も聞き及んだ話があるんですが、浅海中学校、美津島町の、そこに、市長のほうに何か相談来てないですか。私の聞き及んだところでは、自衛隊の電子部隊が入るような話を聞いておりますけども、市長のほうは、それは承知しておりますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 浅海中学校の件につきましては、正式には私のところには、まだ来ておりません。

ただ、担当部のほうに、隊員の方がお見えになって、できれば訓練施設というようなことで、借りることは可能か、それかまた売却が可能かというようなことは、打診は来ておりますけども、ただその後、正式には来ておりません。

私たちもちょっとできるだけ早めに、その相談もしていただかないと、こちらもいろいろと事務処理等がございますので、できるだけ早い段階で、申請、または御相談等をお願いしたいということは言うとります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 私の聞いたところによりますと、100名程度の電子部隊ということで、日本で4か所開設しとるらしいんです。大体100名前後じゃないか、3交代あるから100名程度じゃないか、というような話もございますし、それが来れば宿舎も造らんといかんだろうというような状況、そういう話も聞いております。それは定かじゃありません。話を聞いてただけですから、市長にそれを、お聞きをしおるんですが、そういう状況もありますので、そういうことも含めて、廃校の跡地をそういうのに有効に使っていただければ、一番いいことなんです。

廃校をやはり一般に広く、家賃がかからん、ということになりますと、広くアピールする必要があると思うんです。例えば、インターネットに載せて、図面をつけて、環境とかいろんなやつを載せて、そして公募をかけると、やはりそれについても、光通信ケーブル、これを早くやらんと企業はのってきませんよね。

この前の市長の答弁ですと、それはやり変えるというお話もありましたが、それはいつぐらいになりますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 対馬市内の光化は既にできているんですけども、ただこれが市民の皆様から、速度等がまだまだ不足をするというようなことでございますので、この対馬の光関係の施設を民間に譲渡をすることによって、速度等を早くしていこうというようなことで、今確か、公募していると思っております。

もうしばらくしますと、そこら辺でまた審査会等が開かれるんじゃないかなと思っております。私のほうには、何社そういったところに来ていたかという情報までは、上がっては来ておりませんけども、今そういうことで進んでおります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） それも早く進めるようにしないと、立ち後れていきます。

もう一つは、廃校跡地を利用して、今の老人介護施設、それから老人ホームですか、入江議員がよく言いますけれども、315人の待機者がおる、これ何とかならんかという話を何回もされとるみたいですが、廃校跡地を利用して、そういうことにも利用すると、それを民間に公募をかけて、それでやるというふうなこともあるでしょうし、それをつくったにしても、介護士がいな、やっぱり介護士の養成施設ですか、こういうことも一つ考える必要があろうかと思えます。

今から先の老人福祉のことを考えますと、やはり介護士不足ですよ、今。そうなってくると、待機者はおって、施設は空いてますが、介護士がいらないから受け入ができません、というような状況も現実にあっております。それは本土から連れてくるというのも大変な経費がかかりますから、やはり地元は地元で、そういうことも含めた中で、検討をしていく必要があるんじゃないかなと思えますが、答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） この廃校跡の利活用については、まだまだ詰めていかなくちゃならないところも、多々あろうかと思えます。そういうことで、特に廃校舎でも、鉄筋コンクリート造りの場合は、かなり残存価額が残っておりまして、これを貸し出すときには、その利用料というのがかなり高額になるようになっております。

そういったところを、少し改善をして、利用者が利用しやすいようにというようなことで、今回、条例等を改正をお願いしているところでありまして、これができれば、かなりの利活用が進むものと思っておりますので、このことにつきましては、今後しっかりと進めていきたいと思えます。

そして、また、利活用の中で、介護関係のそういった専門学校的なもの、そしてそういった訓練施設になるんですか、そこについては、私も今ここで、どうしたいということまで、計画も頭の中にもありませんし、今後いろいろと勉強をさせてもらいながら、組立てをしてみたいと思えます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 市長、今後勉強させてもらうじゃ間に合いません。間に合いません。廃校舎はあるわけですから、今現在、たくさんあるわけですから、それをいかに利活用していくかということを考えると、今から勉強しますじゃ間に合いません。早急に勉強してください。徹夜でして。

対馬というところ、この島自体を特色のある島にしなきゃならんと思うんです。先ほど言いましたが、福祉のことにつきましても、福祉に優しい島ですよと、そういう施設もしっかり整っています。環境もいいですよ、福祉施設も入居できる場所もあります。準備しとります。

まず一番先は、対馬の待機者の方たちを優先し、入れなあかんでしょうが、少し高額な宿を造って、島外からこちらに帰ってくる、いうものを造れば、そこら辺でも変わってくると思います。特色が要ると思うんです。対馬いうのはどういう島ですかと言われたときに、対馬は福祉には本当に優しいおもてなしのいい島なんですよと、そういうつくり方もあるんじゃないかなと思うんです。

それには、廃校を利用した、そういうことも含めた中で、どういうふうにしていけば、施設に入っている待機者の人たちはクリアできるようになるのか、ということを実際に考える必要がありそうですが、今から勉強するじゃ間に合いませんので、早急に勉強して、何とかこれが進んでいくように、公募をかければあると思うんです。公募をかければ。

それで光通信ケーブルについてでも、もうできとりますと、そういうこと、環境をしっかりとくった中で、公募をかけていけば、私はよくなっていくと。

先ほど言いましたが、償還金の問題、鉄筋コンクリートだと、まだ残ってます。その金は、その校舎が潰れてでも、終わるまで払うていかなきゃならん。これは誰が払うかという、対馬市が払っていく。そういうことを考えると、早くそういうことも整理をして、活用を考える必要があると、私はそう思います。

ですから、庁舎内で、そこら辺のことも含めた中で、アクションプランとかいろんなあります。そういう計画がいろいろあるやないですか。ただ、計画にのっとって1つずつやっていきますよと言うんではなしに、突発的にこういう問題が、廃校の問題についても、減免、また家賃もいらぬいう条例ができましたんで、使いやすくなりました。

だから、木造のところは人が、住まんなんたら腐ってしまいます。腐ってでも、償還金が残っていたら、払うていかなかん。そういうこともあろうかと思えます。

ですから、そういうこともしっかり踏まえた中で、どうすれば対馬がよくなっていくかなということ、1つの目標だけじゃなしに、いろんな方面に目を向けてやっていくのが、市長の仕事だと思えます。しっかり目を据えて、あっちもこっちも見て、その中で対馬を引っ張って行ってください。よろしくお願ひします。

4分残しましたが、これで終わります。お願ひします。

それから教育長、久田小学校の件については、今、市長にもお願ひしましたが、予算を早く出していただいて、一日でも早くこれができるように、よろしくお願ひしときます。お願ひします。

以上で終わります。

○議長（初村 久藏君） これで船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩とします。再開は1時ちょうどからといたします。

午前11時57分休憩

---

午後1時00分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 皆様、大変お疲れさまです。対政会、13番議員の波田政和でございます。市長をはじめ執行部の皆さんにおかれましては、毎日の行政運営、大変お疲れさまでございます。

初めに、この場をお借りしまして、新中島教育長さんの今後の御活躍に期待し、教育行政が確固たるものとなることを信じてやみません。よろしく願いしておきます。

また、世界的に猛威を振るい、世界を日本を苦しめたコロナ感染も落ち着きを見せつつ減少傾向にあり、対馬市においても、お一人お一人の予防と感染対策の徹底と認識で感染者も少なく、今後におかれましても十分な感染対策で過ごされることを望んでおります。そんな中、落ち込んでしまっている地域経済の回復が重要となってきておりますが、経済の回復には人の流れと交流が比例していると思うことから、今回は地域が活性化するにはどうあるべきなのか、またどうすべきかについてお尋ねしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、初めに新対馬博物館、誠に開館おめでとうございます。振り返れば、前市長の肝煎り事業であり、比田勝市長の下、このたび晴れて開館、オープン運びとなったのですが、引き続きの事業ゆえ紆余曲折がたくさんありながらもめでたくオープンの運びとなり、対馬市民の一人として大変喜びを感じております。文化と歴史が後世に正しく引き継がれ、対馬市の観光の目玉となるよう期待しております。前市長から受け継いだ事業とはいえ、比田勝市長の功績であるという事は言うまでもありません。私は今回、広く世間に伝えるべき観光スポットの在り方として市長にお伺いをいたします。

この地域には、対馬市役所本庁舎をはじめ、対馬博物館、朝鮮通信使歴史館、櫓門、金石城庭園の心字池、万松院と集中しており、島内の中でも特に魅力のある観光スポットであると認識しております。私が、本市を訪れられる観光客の方々に名所巡りについて感想を尋ねるときのお話を紹介させていただきます。

まず、博物館についてですが、博物館玄関入り口が裏通りにあり、市役所庁舎側にある坂道通路は使用できないのか。博物館を出て櫓門前に入る通路の新設はできないかなど、観光は人の流れが大事ではないかと指摘があっておりましたので、申し添えておきます。

また、元ビジターセンター入り口の坂道通路は進入禁止の柵が設置されておりますが、あの坂道通路も文化庁の管轄ですか。再度確認しておきます。

私は、観光とは、歩き散策し、ゆっくり研鑽することが大事であると考えておりますが、人の動線を再度検証してみることができないものかと感じております。例えば各施設内にはその施設内を見学しやすくするために順路の案内が設置されており、回りやすく、また理解しやすい、だとするならば、野外でも名所が集中しているこの地域でも人の動線を考え、順路案内など設置で巡らせてやることも我々の仕事であると思っております。集中している観光名所に関し、大きな看板を設置し、縮尺図でも設置して名所巡り案内経路など研究ができないものなのか。また、提案に対し賛否両論はあると思いますが、清水が丘グラウンドを利用し、縮尺対馬島を建造し、全島の観光名所など案内することも一つの魅力ではないでしょうか。このことについて市長の考えがあればまた後ほどよろしく願いしておきます。

それと各施設の入館料についてでございますが、広く世間に周知させる、また宣伝効果を高めるため、期間を定め一定期間、全て入館料を無料とし、観光の魅力の一つとする考えはないか。博物館のオープンに伴いたくさんの入館者が利用されてあるとは思いますが、入場者の増減で固定経費にはあまり影響がないと考えることから、まず誰一人取り残さない精神で進む対馬市であるがゆえに、島民全ての方々に来館していただけるよう配慮はいただけないのですか。島民の方々に大事にいただける施設であることが私は大事だと思っております。

それと、先ほど申しますように、入館料の一定期間無料化する提案も御理解していただき、ぜひ全ての方々が回りやすく理解していただくことが名所のアピールにつながると思っておりますが、市長、いかがでしょうか。ここは思い切って入場者の出入りが多い少ないは考えず、ぜひ地元の人をはじめ観光客の方々が入りやすく回りやすい名所巡りを考えていけないか、併せてお尋ねしておきます。

次に、厳原南地区アクションプランについてお尋ねします。

まず初めに、今回このアクションプランの作成に携わっていただきました各委員の皆様にご心より感謝申し上げます。それと同時にこのアクションプランの発表があったとき、事を起こすための計画が活字化され、本当の意味で動き出したと実感を受けております。皆様も御承知のとおり、この厳原南地区は、軍用道路を軸とし整備が遅れ、アップダウンが激しく、各集落が点在する地域であります。過去において実現不可能な道路整備計画の発表もなされていましたが、政治家の言葉ではなく、実現可能な方向に修正・見直しをお願いしておきます。

生活道路のインフラ整備は少しずつ進んでいると認識しておりますが、また道路整備に関しましては、中期・長期での取組であることも理解しております。地域に住む住民の今を考え、早期に取り組んでいただくことも併せて強くお願いしておきます。地域を守り地域で生活するのも地域住民です。自然減は別として、地域に魅力をつくり出すことが今やるべきことで定住につながり、比田勝市長に託されたことと思っております。

そこで、このプランの中で短期の取組を早期に今、進めることが大事であると感じております。先祖が残し、後世に伝える財産の維持もままならない現実を見たとき、生活基盤を中心に地域にあったスタイルの構築が急務であり、住民の皆様の共通の認識ではないでしょうか。現実的には少子高齢化、また過疎化が著しく進む中、各種商店も減少し、生活難民も増えつつある現況です。現実を真剣に受け止め、今やるべきことは何か。アクションプランで将来構想には期待を持っていますが、今回は短期での取組について、住民の声を中心に取り上げさせていただきます。

このプランを拝見しますと、地域性を生かし、農林水産業を軸に設計と集客で活性化をさせる地域再生の在り方が示されていますが、文化や歴史は集中管理で守れますが、生活の基盤は今、住んでいる住民の方々が守り継続するしかないのであります。そのようなことから、今回は短期計画の中にもありますトイレ、休憩所等の整備事業についてお伺いしますが、集客や観光巡りにはトイレ設置整備は欠かせません。先日、バードウォッチングの方々からの強い要望で公衆トイレ設置が急務であるのではとの指摘がありました。そこで短期で行うトイレの整備案として、現在、各地域に存在する消防分団庫のトイレを活用することはできないのか。また、構造は別として利用できるのか、できないのか、後ほどお答えいただきたいと思います。

また、維持管理についても地域の方々と協議を行い、各地区での管理ができないかも併せてお尋ねします。

以上、大きく2点尋ねておりますが、個々の話は自席からまた質疑したいと思いますので、市長、よろしく願いしておきます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 波田議員の質問にお答えいたします。

初めに博物館関係でございますけども、4月30日に開館した対馬博物館は対馬の歴史、芸術、民族、自然に関する文化的資源を収集保管し、調査研究の成果を集積及び展示して活用を図り、魅力を発揮し、学習や交流、観光の拠点となることを目指しながら、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的としているところでございます。

また、平成27年に策定しました整備基本計画においても、基本理念として5点を掲げ、1点目といたしまして、対馬の豊かな自然・歴史・文化の発信、2点目が市民県民が共に学ぶ学習拠点、3点目が宗家関係資料などの貴重資料の保存研究、4点目が日韓交流の拠点、5点目が対馬の魅力を生かした観光拠点を挙げております。

対馬市総合戦略における目標入館者数は、年間10万人、月8,300人としておりますが、開館後1か月間、4月の30日から5月末になっておりますけども、この入館者数は6,536人でございます。目標入館者数には若干届かない状況でございますが、要因といたしまして外国人観光客を見据えた設定に数値がなっているのに対し、国際航路の休止やコロナの影響による入国

制限、そして日本人観光客についても同様にコロナの影響が考えられるところでございます。今後は、博物館の利用機会を増やすために郷土愛醸成事業として市内の小中学校が博物館を見学する場合のバス代を補助しているほか、年2回程度の特別展示、多彩なテーマでの企画展示、島外からの団体の視察や研修会の受入れ、雑誌や機関誌への記事の投稿、旅行会社へのPR等を行い、目標を上回る来館者を目指しているところでございます。

観光の動線に関しましては、文化交流課が島外からの観光客をターゲットとした有料施設、博物館、旧金石城庭園、万松院、朝鮮通信使歴史館等でございますけれども、この施設の周遊観覧券を作成するよう関係者の調整を進めているところでございます。

また、周遊観覧券はパンフレット型として、ふれあい処つしまを出発し、櫓門をくぐり博物館へ、博物館を観覧後、旧金石城庭園、万松院と巡り、最後に朝鮮通信使歴史館へを基本コースとし、これ以外に博物館駐車場、今後、整備する予定の朝鮮通信使歴史館駐車場を出発するコースの設定を行い、施設の紹介なども合わせて実施してまいります。

博物館下のスロープの部分に関しましては、教育委員会文化財課が令和2年度に策定した史跡金石城跡及び名勝旧金石城庭園保存活用計画の中で今後の保存管理の方法として、歴史的景観の修正のためにスロープは解体、石垣への積み直しを検討するとうたっております。これは史跡金石城跡の隣接地に対馬博物館を整備するに当たり、その周辺景観の造成と史跡整備を両立できないかとの考えに端を発しております。現在、対馬藩関連遺産群保存活用計画等検討委員会において、令和3年度から令和12年度までの10年計画で金石城跡、旧金石城庭園の第2期整備計画を検討中です。文化庁や委員会からもスロープの解体、積み直しの必要性は認められるが、当時のままの石垣遺構が多く残る御台所門、櫓門前の石垣の整備を優先すべきであるとの御指導をいただいております。

また、スロープ部分につきましては、事前の調査の必要性、石材や石工の確保等に課題を示されており、事業費、事業期間ともに長期化が見込まれます。

また、来館者を増やす取組として、市民の観覧料金を無料にする期間の設定も今後、実施してまいりたいというふうに考えております。

次に、巖原南部地域アクションプランについてでございますが、本プランは巖原南部地域の内山、瀬、豆敷、浅藻、内院の5つの地区を3つのエリアに分け、地域の持つ優れた自然環境や社会環境を地域独自の貴重な資源として有効活用し、巖原南部地域の活性化を図っていくための行動計画としております。3つのエリアごとに整備方針を設定しておりますが、この整備計画を具現化していくためには、地域住民の果たすべく役割が重要となり、地域住民が主体性を持ち、行動計画に沿った取組が必要となります。本アクションプランの推進につきましては、地域住民が主体となり、地域事業者や団体と行政が協力して取組を進めていくこととしておりますので、そ

それぞれの果たすべき役割や実施していく事業などについては、引き続き協議・検討を行い、優先順位をつけながら取組を進めていくこととしております。

また、行政におきましては、複数の部署に関わることから関係部署にも策定の経緯、計画、取組について説明を行い、横断的に取り組むこととしております。

具体的な取組につきましては、これまでの地区との協議の中で特に豆殿地区住民センターの利活用及び整備事業に係る意見が多数あり、当該施設は老朽化が進み、雨漏りもしている状況でありますので、地域の意向を聞き取り、施設の規模や仕様を取りまとめ、建て替えを基本に取組を進めていくこととしております。

このほか、トイレ、休憩所等の整備事業、観光案内板等の設置事業、有害鳥獣対策事業につきましても、多くの意見がありましたので、設置箇所等住民の意見を取りまとめ、優先順位の高いものから順次、取り組むこととしております。

議員のほうから消防団施設等のトイレの使用は可能かというような質問がございましたけども、このことにつきましては後ほど、また消防長のほうから回答をさせたいと思います。今後もこの計画を推進することで、好循環を生み出し、巖原南部地域全体の活性化を図ってまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 消防長、主藤庄司君。

○消防長（主藤 庄司君） 消防団分団庫のトイレの設置の可否についての御質問にお答えさせていただきます。

消防団分団庫のトイレにつきましては、現在でも公衆トイレとして使用している施設もございます。ただ、その施設は屋外から直接トイレのみに入ることができる造りとなっております。そのようなことから防犯面等も考慮いたしまして、トイレが車庫などを經由せずに屋外から直接トイレのみに入れる造りとすれば、清掃等を含めた維持管理体制などについて、分団庫を管理する消防団分団と調整が整えば利用は可能ではないかと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。

まず、今、消防長のお答えで使っているところもあるし、設備的に可能なら使用もできるという話であります。実は全てにおいて1階にあると思うんですね。トイレはね。全てとは言いませんけど。ということは、先ほどから申しますように、この人間、生理的現象はどうしようもできんじゃないですか。だから短期で取り組むべきものは何かというお尋ねをしているわけですが、だから防犯上とかいろいろな支障がある面はクリアすることは簡単です。ドアをつけ直

せばいいだけのことですから。そういうことを図ってやって地域に人を呼び込むためにはどうするのかというところを研究していただきたいというのがこの分団庫使用という話をしたわけですが、この奥底にはトイレを造ってくれ言うたってできやせんわけですよ。何年かかってもね。そういうことから今あるものを上手に使いながら、地区とお話をしながら管理面まで話ができるんじゃないかと。そういった施設の無いところの方々とお話ししますと、地域で話合いをしながらでも、そういう当番制でやるとかそういう話も出ておりましたので、やっぱり受け入れる側が一番大事じゃなかろうかと思っておりますので、そこも含めて消防長が判断するのもいかがなものかと思いますが、市長もそこを踏まえまして早急な受入れ体制だけではできるように何とか努力していただきたいというのがこのトイレに関してのお話でございますので、受入れとかいろいろ言う人がたくさんのもろもろの計画はある中で早急に願うするのはこのことじゃなかろうかなと思っておりますので、一日も早く着手できるように、先ほどもいろいろな地区の話もちらほら出ておりますけれども、やっぱり一番大事なところは大事なほうを優先順位を決めていただきたいという思いでありますので、よろしく願いしておきます。

それでは、博物館周辺整備について話をさせていただきますが、今、市長も私も方向性は同じかなと、表現の仕方はちょっと違っているかもしれませんが、私が言いたいのは、コロナも落ち着きつつあります。観光客も入れながら経済回復をしなくちゃいけないということは共通の認識の下、一個一個の施設は立派なものですよ。ただ、その中でみんなが上手に順路を追ってやっていける案内といえますか、易しく行ける体制を取るためには何か方法はないのかと。先ほど冒頭に話しましたように、一目で分かるぐらいの大きな看板を立てながら、集中しているわけですから、何とか告知したらいかがかなと思っておりますが、市長、そこはどうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 冒頭の答弁の中でも申しましたように、周遊券等も今後きちんと出してこうというようなことで、その順路等もパンフレット等で示していければと思っておりますが、議員おっしゃられるようにどこかよく目立つところにその順路等が、また観光案内板等で設置できれば、そのことについても進めていきたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。市長も現況よりももう一步深く皆さんが利用しやすく、学習しやすく、回れる体制を取りたいという気持ちは共通だと思えました。そういう中で先ほども若干、清水が丘を利用して対馬島の再建、再築なるかという話もしてみましたが、やっぱり南北に長いから半日や一日じゃとてもじゃないじゃないですか。そういうことも将来にわたって考えるのも一つかなと私なりに思うところでございます。そういう中でもいろんなものを周知徹底といえますか、皆さんに分かりやすくするためにはいろんな方法があると思う

んですよ。先ほどから言いますように、周辺整備はまた順路が分かりやすく看板でも立ててくださいというお話をしておりますが、やっぱり今言うように、どこを起点に動くかということも大事になってくると思うんですよ。私は経済も含めて話しましたが、バスのロータリーのところからバス停まで店一軒もないんですよ。そういう中で、歩かせんとですね、観光というのは。駐車場の話が出らなかったからあんまりとやかく言いませんけども、市長は御存じかどうか知りませんが、大型バスがあの桜通りといいますか、市役所の横にあそこに止まっている、迷惑しちよるんですよ、一般人は、非常に。それを黙認することはいかんじゃないですか。そういったことを考えて目に触れなければ黙っておこうじゃなくて、人間が動くということはそれで何かで来ているわけですからね。やっぱりそういったことを考えたときにみんなで動きやすく、またそれが経済に跳ね返るためにはどうする。市役所があそこに店出せとは言いませんよ。言いませんけども、やっぱりそういったちょっとしたことが集客につながっていくんじゃないかな。今までずっと見ますと民間が力を入れながらやることは見ていますけども、行政がこういったことをやってみたらどうでしょうかということはいくらも聞いたこともないし、観光客の先ほどの話も若干しましたけども、皆さんそういった小さいことから大きいことまでいろいろ話されています。だからせっかくこの周辺整備が今回、取り上げさせてもらったのは、満足してもらいたいじゃないですか、皆さんに。そういった意味もありますので、よろしく願いしておきますが、この、先ほど市長が博物館の無料化を計画していますという話でありましたので、いつ頃それを実現するかだけちょっと教えてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今これは博物館の関係のちょっと職員から話を聞いたところでございますけども、恐らく期間を設定をして、いつまでもだらだらではちょっと今度、入館料、運営の関係にもございますので、期間を決めた上で特に高齢者等を対象に設定をしたいということで、まだ具体的には決まっていないというふう聞いております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。市長、具体的に決まっていないんじゃないかと、先ほどから話がありますように、市長が決めればいいことやないですか。命令してくださいよ。年寄り若くならんから。そういったことを考えて一日も早く対処していただきたいと、ここはこのように思っております。

先ほどから私がこの観光地の動線について、私なりの話を一貫していないんじゃないかという話もしましたが、見方によろるとしてと言われるかも知れません。先ほどバスの交通の話も若干触れましたけども、私は基本的には観光とは歩くものだと思っていますから、その辺でやっぱり徹底させたほうがいいんじゃないかなという思いであります。

それと博物館の坂道の話も聞きました。元の坂道ですね。それはそれなりの計画があるんでしょう。しかしながらそこで私が疑問に思うのは、元幼稚園の跡地といいますか、あそこはたくさん大きな広場が空いていますが、今までの市長の話では文化庁の管轄でいろいろ規制があつてできないんだという話が、もう私も理解しております。しかしながら、駐車場でできなかったら停車場になるんじゃないかとか、いろんな作戦を立ててみたらどうかと思うんですよ。というのが、工事期間中は貸しているわけですから。やっぱりそれは角度の問題でしょう。例えばたくさん来るようになったとしても、時間制を敷くとか、何か方法が、市長、考えてみてくださいよ。やっぱりそういうふうになればあの辺もまたにぎわいも出てくるんじゃないかかと思っておりますし、皆さんが気持ちよく対馬に来て気持ちよく帰れるような体制を、個々の建物を相互にすることじゃなくて、全体で満足いくというのが私は観光巡りであると思っておりますので、ひとつそこをよろしく願いしておきます。

それと先ほど前段で話をさせていただきましたが、南部地区のアクションプランについても一度だけ確認しておきますが、特に久田から浅藻までの東周りの軍用道路について、再度お尋ねしますが、以前、対馬市の単独で、なるかならんか分からん計画の話があつたじゃないですか。そういうことで市民の方も期待もしておる人もおつたし、市長、市の単独での南部地区の道路つてできないじゃないですか。できるか、できないか、まず教えてくださいませんか。今までの話の中で。どうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 安神浅藻線の関係だというふうに思いますけども、市では今、安神浅藻線では、現在は安神までの計画を立ててトンネル等を中心に事業を進めているところでございます。それでこれまでも安神から先については、県道のバイパス的な線形になっております久和までは何とか市で単独でも計画をしたいということで、これまでも計画としては残ってはおります。ただ、今度は久和から浅藻まで、こちらについてはもう県道の計画とほぼ平行になりますので、これについては県とまた協議を進めさせていただきますというような、これまで説明してきたというふうに思っております。それで前回も対馬市のこの議会のほうより安神までは分かるけども、それから先の計画はどうなのか、考えたほうがいいのかというようなそういった指導もいただいたというふうに理解をしているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 市長、私が聞いているのは、そこなんです。できるかできないかを聞いているんです。久和までは市の単独財源でやるという捉え方でいいんですか。そうじゃなくて、地域に住む人たちは政治家がそこそこ話をしたことを信じているんです。それは来世にできても話にならんじゃないですか。だからやっぱり建設的にやるためにはどうするのか。今

言わはるように県道も走つとることですから、その辺とタイアップしながら、本当の話をしていただきたいんですよ。なぜなら地域に住む人たちは、自分がその地域を守っていかないけんということは分かっておるから住んでおるわけですよ。そのことを考えて、なる話をしたいし、私はとてもじゃないですけど、今、市長の言われる市が単独で久和まで通し切るとはとても信じられませんよ。あのごみ焼却場のトンネル、まだ掘れんじゃないですか。何十年かかって掘れんのに道路ができますか。もう一度お答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 先ほども申しましたように、今現在の計画では尾浦・安神間がきちんとした計画に上がって、ここは今、改良を進めていると。安神から先についてはまだ具体的な計画としては上がってはいない状況でありました。それで今おっしゃられるように、これを安神から先を単独事業でやれるかということにつきましては、今現在は図面上の計画ではありますけども、ここですぐに単独でやりますとか、いや、もうここでやめませんかとはちょっと言うことは不可能かなと思います。今現在のところではっきりとこう言えることであれば、今、安神から先の計画は今現在は具体的にはありませんということで御理解を願えればと思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） この件に関しましたら、議会のほうからも見直したらどうかとか、いろんな話は何回もしておりますが、先ほどから言うように地域住民の方々は道路を造ってもらうのが目的じゃないんですよ。それは地域に住む人は自分がそこに生まれ育っているから分かっているわけですよ。しかしながらそういった話がありますとやっぱり期待するじゃないですか。だから私がこのアクションプランにしてもなぜ取り上げたかいいいますと、皆さんが努力して短期から長期までの計画を立ててありますので、要するに行動を起こす計画が発表されたわけですから、必ずやっついていかんと約束事にならんから、そういった意味も含めまして、私は市長、無理しながら予算もないのに道路を造るなんて無謀な話はやめて、見直しながら最短でいくちゅう言葉が欲しいんですけどね。やっぱりそうせんと期待だけ持って先に進まなければ意味がないじゃないですか。そこも含めまして何とか早急によく方法を、もうこれは県を交えた話しかないと思うんですよ。だからそんなに市がたくさん財源があるわけやないから、無理はなされず分かりやすく住民にお答えが欲しいわけですが、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに議会のほうからも見直してはどうかというような御意見も伺っているところでありまして、先ほどから申しますように、安神から先の具体的な計画はしておりませんでした。ただ、これを今後、県のほうに今の県道の改良と合わせて要望をしていかなくてもならないとは思っております。市が単独で進める安神から久和までについては、この費用対効

果と申しましようか、このビーバイシー等もかなり難しくなるのではないかなと思っております。そういうことで先ほども申しましたように、県のほうとも県道のバイパスか、そしてまたショートカット等もお願いをしながら協議を進めてまいりたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） ありがとうございます。

ということは、先ほどありますように、費用対効果、改良効果が表れなかったら流れるという考え方ですか。そうじゃないじゃないですか。費用対効果があろうがなかろうが、進んだらいいわけですからね。そういう話しを比較検討するものではないと私は思っておりますがね。だから、やっぱり地域がなくなるわけではありませんし、そこに住む人がおる以上は1日も早期にどうあるべきかを考える、今後やっていきますと市長が答えてくれればやめますが。どうでしょう。どうですか、最後に。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） いくら単独事業であれ、この費用対効果というのは、やはりどれだけの事業を突っ込んで、どれだけの効果が上がるか。それを判断材料にいたしますので、ここは最終的にはこの費用対効果等を勘案しながら計画すべきものだというふうに私は考えております。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 分かりましたとはなかなか言えませんが、どうしても費用対効果とか改良効果の話をしますか。

○市長（比田勝 尚喜君） せんにゃあいかんと思います。

○議員（13番 波田 政和君） なるほど。そしたら何も作れんじゃないですか。そういう話になってくると。そうじゃないじゃないですか。地域住民がニーズに応じて、何とか1日も早くなるように努力しますと言い換えてくれます。どうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、市民の皆様のお気持ち、本当私も痛いほど分かります。そしてまた私も元々土木技術者でございますので、この費用対効果のあり方というのは、例えば東京でもこういった国境の離島でも考え方は同じということで、私もこの費用対効果のあり方については本当にこれは何とかして改良といいますか、考え方を改めてもらわなくちゃならんという気持ちは持っておりますけれども、現時点ではその、たとえ東京であれこのような田舎であれ費用対効果の考え方は一緒でございますので、費用対効果を前面に出すことはやむを得ないということでございますけれども。ただ、何らかの方法で事業費を安くすることで、このビーバイシーの値を少しでも上げると。そしてまた、その効果を上げるということは今後も考えていかなくてはならないというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 13番、波田政和君。

○議員（13番 波田 政和君） 最後に。この件に関しては、次回またお尋ねしたいと思います。

以上で終わります。

○議長（初村 久藏君） これで波田政和君の質問は終わりました。

---

○議長（初村 久藏君） 以上で本日予定しておりました市政一般質問は終わります。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後1時51分散会

---